

# 総務委員会 会議録

日 時 令和8年3月4日（水曜日） 午後1時00分～午後1時33分

場 所 白杵庁舎2階 第1委員会室

## 出席委員の氏名

委員長 梅田 徳男      副委員長 甲斐 尊      委 員 戸匹 映二  
委 員 奥田富美子      委 員 大塚 州章      委 員 内藤 康弘

## 欠席委員の氏名

（ な し ）

## 説明のため出席した者の職氏名

政策監（総務・企画担当） 安東 信二      総務課長      佐世 善之  
総務課参事      桑原 昇造

## 出席した事務局職員の職氏名

書記 小嶋 佳希

## 傍聴者

1名

## 会議に付した事件及び審査結果

< 審査議案 >

議案番号	議 案 名	審査結果
第6号	白杵市行政組織条例の一部改正について	原案可決

午後1時00分 開議

## ○委員長（梅田徳男）

ただいまから総務委員会を開催いたします。本日、傍聴の希望がございますので許可したい

と思います。

(傍聴者入室)

**○委員長(梅田徳男)**

これより議事に入ります。本委員会に付託されました議案は1件であります。お手元の次第にそって審査を行いたいと思います。それでは総務課所管の議案の審査を行います。第6号議案 白杵市行政組織条例の一部改正についてを議題といたします。執行部の説明を求めます。

**◎総務課長(佐世善之)**

( 付議議案書及び配付資料に基づき説明 )

**○委員長(梅田徳男)**

以上で説明が終わりました。これより質疑に入ります。質疑は挙手をもってお願いいたします。

**○委員(奥田富美子)**

名称の変更と業務の内容の変更によって、職員の数とかも変わりますか。

**◎総務課長(佐世善之)**

奥田委員の質問にお答えします。事務分掌が増える分につきましては、職員数が当然変わりますので、DX戦略課については強化ということで増員、契約・総務事務課においても増員ということを想定しております。

**○委員(大塚州章)**

DX戦略課の職員数は何人ぐらいを適正と考えていますか。

**◎総務課長(佐世善之)**

大塚委員の質問についてお答えします。現在、総務課の中でDX推進室4名でやっておりますけれども、今後強化ということで課員については5名を想定しております。また、この組織条例に直接は影響いたしませんけれども、DX担当政策監を置くように予定をしておりますので、それを含めると6名です。

**○委員(大塚州章)**

この組織図を見ると、DX推進担当政策監と総務・企画担当政策監の位置付けがちよっと違うと思いますが、これは何か意図がありますか。

**◎総務課長(佐世善之)**

大塚委員の質問にお答えします。資料の組織図の中で、総務・企画担当政策監につきましては総務・企画部門ということで、総務課、財務経営課、秘書・総合政策課、地域力創生課、DX戦略課、防災危機管理課、契約・総務事務課の担当の政策監ということでございますけれども、このDX推進担当政策監については、その部門を統括するわけではなくて、市長がDX推進本部の本部長になりますので、市長の補助といいますか、直接市長の命を受けて、DXを担当するというので、部門を跨いで横断的に全ての部分のDXを担当するというのでありますので、課を束ねるといってわけじゃなくて、教育委員会、行政委員会、選管、監査そういったとこ

ろも含めてDXを推進するという事です。

○委員（大塚州章）

ということは、DX推進担当政策監の位置付けは、ちょっと他の政策監と違うという認識でよろしいですか。

◎総務課長（佐世善之）

大塚委員の質問にお答えします。位置付けが変わってくる形になります。

○委員（大塚州章）

組織図で副市長の横に政策監を引っ張っていますけど、これ副市長と兼務ということですか。

◎総務課長（佐世善之）

大塚委員の質問にお答えします。副市長についていますけど、兼務ということではなく、職員を配置します。

○委員（大塚州章）

そうであれば、もし線を引っ張るのであれば、副市長と下の間の方に線を引っ張った方が良いと思いますが、兼務なのかなと思ってそれが心配だったのでどうでしょうか。

◎総務・企画担当政策監（安東信二）

大塚委員のご質問にお答えいたします。ちょっと組織図の位置が微妙ですけれども、先ほど課長が申しました、横串を刺すという感じの役割をする関係で、図面に表すと難しくなっています。副市長と同等とか副市長が兼ねるというわけではないんですけど、全庁横断的にDXに関して見ますということになります。

◎総務課参事（桑原昇造）

組織図の表し方がちょっと難しかったのですが、先ほどご指摘をいただいたように、副市長と同じレベルにあるのかというふうに見えてしまうということで、仮に副市長の右側に入れてしまうと、今度は他の政策監よりも上の立ち位置になるのかとかいうような形になってしまいますので、ちょっと表現が難しかったのですが、あくまでも政策監という立場としては、他の政策監と同じレベルであるということです。しかしながら、政策を進める上では、部門を管理するのではなくて、全部の行政分野において横断的な立場で業務推進に当たるといったようなことがございまして、このような図になってしまったということで、ご理解をいただきたいと思っています。

○委員（奥田富美子）

組織図のクリエイティブシティ推進室のところですが、この名前にするにあたっての議論で特徴的なところはありましたでしょうか。食文化創造都市推進室はわかりやすかったですが、横文字になるということで、広く考えるというようなこと言われていたかと思いますが、議論の過程がわかればお願いします。

◎総務・企画担当政策監（安東信二）

奥田委員のご質問にお答えいたします。わかりづらいのではということだと思います。市長が実際ユネスコの総会に出席いたしまして、ユネスコに認められている創造都市ということを

非常に重要視しておりました。ぜひ市民の方に創造都市、クリエイティブシティであるということをもっと認識していただきたいということです。ただ単に白杵市の食がおいしいから創造都市になっているということよりも、食は切り口ではありますが、国際的に認められた創造都市であるということをもっと啓発したいということで、こういう名前にさせていただいております。

**○委員（大塚州章）**

契約・総務事務課というのは、今契約検査課の現職の課長が配置され、全般的に跨って契約事務をしていくという形で、ここも人数は増えるのですか。

**◎総務課長（佐世善之）**

大塚委員の質問にお答えいたします。こちらにつきましては、総務事務の方は支出命令の責任者になりますので、別に管理職を置く予定にしております。契約検査につきましては、検査部門の責任者ということで、現状管理職を配置していますのでそのまま管理職を置きます。人数については、現状は再任用含めて4名ですけども、総務事務部門として2名追加を予定しています。

**○委員（大塚州章）**

子ども子育て課の名称をひらがなにすることですが、例えば、こうすることによって、市内の認可保育所も皆「こども」という表記になっていますか。そういうふうになってないところはそういうふうにしてもらうのですか。

**◎総務・企画担当政策監（安東信二）**

休憩をお願いします。

**○委員長（梅田徳男）**

休憩します。

午後1時13分 休憩

---

午後1時13分 再開

**○委員長（梅田徳男）**

再開します。

**◎総務課長（佐世善之）**

大塚委員の質問にお答えいたします。こちらについては検討させていただいて、白杵市の認定こども園について、漢字の「子」でありましたので、その漢字をひらがなに改めさせていただいております。今後については、子ども子育て課で、子どもの「子」については再検討させていただいて、認可保育園も含めまして検討していく予定にしております。

**○委員（内藤康弘）**

中間管理機構の関係ですが、今まで農業委員会が中間管理機構の窓口でした。業務を行って

いたのが農林振興課。逆にそれは正規に戻ったということでもいいんだらうと思いますが、これも職員が増えるのですか。

◎総務課長（佐世善之）

内藤委員の質問にお答えします。こちらにつきましては、今回、新年度から農地中間管理機構部分は、農業委員会に事務が移管するということでございます。当然業務が増えますので、職員最低1名、それに対する会計年度任用職員を1名、農業委員会に配置する予定です

○委員（戸匹映二）

組織図のDX戦略課のDX戦略の中に、ケーブルテレビっていうのが入っていますが、このケーブルテレビはDXとどのような関係ですか。どういうふうな形でDXに入るのか、説明をお願いします。

◎総務課長（佐世善之）

戸匹委員の質問にお答えします。これまでもケーブルテレビにつきましては、総務課のDX推進室で担当しておりましたので、そのままDX戦略課に移管する形になります。

○委員（戸匹映二）

何か新しいDXを事業に取り組むとかそういう計画ではなくて、とりあえず今まで入っているので入れているということによろしいですか。

◎総務課長（佐世善之）

戸匹委員の質問にお答えします。維持補修を含めまして、大規模改修については本市で行っておりますので、そういった担当課として表示をさせていただいて、ということでございます。

○委員（甲斐尊）

直接条例事項のことではないですが、この条例改正によって、当然付随する市長の権限に基づく事務決裁規程とか事務分掌規則とか、もろもろ改正を行っていかねばならないと思いますが、必ずこういう組織改正をする時は、人事異動の時に各課の事務分掌とか混乱を生じる可能性がありますので、きちんと取り扱うようよろしくをお願いします。

◎総務・企画担当政策監（安東信二）

承知いたしました。

○委員長（梅田徳男）

委員として質問したいので、暫時委員長と交代します。

○副委員長（甲斐尊）

梅田委員の発言を許可します。

○委員（梅田徳男）

DX推進室担当の政策監、ここに政策監レベルを配置するということについては、全体的な説明の中で理解しないといけないと思いますが、もう一度要点の説明をお願いできますか。ここに政策監を配置しないといけない理由を。

◎総務課長（佐世善之）

梅田委員の質問にお答えします。先ほど申し上げたDXについて、今後、行政事務の効率化、

市民サービスの向上については必要不可欠なものというふうに思っております。そのような中で、総務課内の課内室ではなかなかこれまで進んでこなかったという反省のもと、いわゆる横断的に、全庁的に旗振り役の職員を置いて、より課に入り込んでいながら、事務改善、業務効率化を進めていかないと、やはり職員数においても今後、5年後10年後、その人数を確保できないとなれば、職員が担当しているものをよりDX化して効率化していくというところも視野に入れていかないと持続可能な状況になり得ませんので、強力でDXを推進するために専任を置かしていただくということです。

#### ○委員（梅田徳男）

横断的などというところで疑問に感じました。各課を横断的にどうこうするというのではなく、その業務の進め方というものを、DX戦略課の中でしっかりとした対応するための立ち位置をそこに求めているという、そういう意味と理解して良いですか。要は政策監の分掌業務というのは、あくまでもDX戦略課としての部署業務をするだけですよね。横断的に他の組織に入り込んで云々ということじゃなくて、他に入り込んでやらないといけない部分もある、ある意味DX戦略課の業務として理解できる立場で、立ち位置として政策監をそこに置いているという、そういう理解で良いですね。あくまでも広がりがあるからじゃなくて、本人の分掌業務としては、DX戦略課の業務を担当するということですかね。区切りが分からなくなると大変なことになると思います。

#### ◎総務課長（佐世善之）

梅田委員の質問にお答えします。DX戦略課の方で進めていくのは、当然政策監の範疇の中で行っていきますが、それはおっしゃる通り、立ち位置ということで理解をお願いします。

#### ○副委員長（甲斐尊）

それでは委員長の職務を交代します。

#### ○委員（大塚州章）

横断的にDXを進めていくということは、各課の中に何をDX化できるか、それが内側からもっと作業を効率化するというようなことを、課長もそうだし、中で働く人たちも、平日頃から問題点を洗い出して、これちょっとDX化するにはどうしたらいいだろうかっていうのを取りまとめて、課長からこの政策監に上げて行って、いろいろ形を変えていくのだろうと思います。だから、政策監、戦略課が決めたことを、他の課の中に理解して進める担当者がいないといけないのではないかなと思います。何か考えはありますか。

#### ◎総務課長（佐世善之）

大塚委員の質問にお答えいたします。これについてはDX推進本部というのがございまして、各課にリーダーといいますか、担当者を置かしていただいています。DX戦略課の職員でなくて各課の中で積極的にという一人役の仕事を任した上にお任せするというで非常に激務になるかと思いますが、そういった職員を置かしていただいて、その者と例えばこのDX推進の担当政策監といろいろ協議しながら、その部分については積極的にやりなさいとかいうようなそういった仕切りをやっていただければと考えています。

### ○委員（大塚州章）

なかなか生まれ変わるっていうかチェンジするのに最初は大変だろうと思いますけれど、かといって、やっていかないともう人が減っていくので、その辺はやれば楽になるという感覚があっただけかというかなと思いますのでよろしくお願いします。

### ○委員（内藤康弘）

D X戦略課は、働き方改革とか住民サービスの向上をいかに今後スムーズにやっていくかというような感じで立ち上げたという認識をしていますが、一番先に何をやりたいかということがあれば教えてください。

### ◎総務課長（佐世善之）

内藤委員の質問にお答えいたします。先に取り組みたいことについてですが、いわゆる来なくても良い市役所といいますか、市役所に来なくても手続きがオンライン上でできるようにということについては取り組みたいと思っています。ただし、こちらにつきましては、市民の方々にデジタルデバインドというか、スマホを活用できない方への対応などについても当然検討しないといけないというふうに思っていますので、まずはそういった来なくても済むような窓口というか市役所になっていく。それと今職員についてはそれぞれの庁舎に出勤するようになっておりますけれども、今後オンライン申請ができるようになると、在宅勤務といいますか、職員側も職場に来なくても良いということにも繋がりますので、働き方改革といいますか、通勤の時間の短縮といいますか、職員側についても負担が減ると考えています。オンラインで申請が可能になれば24時間申請ができますので、市民の方々も時間にとらわれずに申請ができるようになるので、そういったところが重要かなというふうに思っています。

### ○委員（奥田富美子）

今のところですが、在宅で勤務ができたりするところの中に、育休とか、時短、具体的には保育園等の送り迎えの時、時間ちょっとずらしてとかいうのを対応していると思いますが、そういう背景もあったりしますか。あると嬉しいなと思いました。

### ◎総務課長（佐世善之）

奥田委員の質問にお答えします。時短勤務という制度でございます。コロナの関係で、在宅勤務は運用上認めておりますので、そういったところを含めまして日の勤務時間が7時間45分になるように、時間をずらして勤務できるというような在宅制度もありますので、例えば保育園に送迎する場合、朝8時半ぐらいに送ったとしても、9時から勤務できるようなことも制度上ありますので、自由に使えるようになると思います。

### ○委員（大塚州章）

A Iを今後使っていくでしょうから、例えば、市のホームページから住民票の発行とか、戸籍情報の発行とか、行かなくてもできるようにはどうしたらいいですかなどの問い合わせに対して、市のLINEで質問に対する回答ができるような、要するにスマホを活用して市民の質問に対してA Iで回答ができるような機能を取り入れていただくと、より市民にわかりやすくDXが進んでいるのだなというのがあると思うんですけど、その辺どうですか。

◎総務・企画担当政策監（安東信二）

大塚委員のご質問にお答えいたします。今大塚委員が言われたような取り組みは、検討を始めております。以前は市民の答えに対して、各担当課から答えを全部用意させていました。何十もの答えを集めて、そこから選んでという作業をしていました。今それをAIが全部やってくれますので、いろんなどが営業に来ますが、もう市の規則とか全部読み込んで、まとめて答えてくれるとかいうようなところもありますので、予算等の課題もありますけれども、LINEで回答ができるようにしたいとは思っております。検討は始めております。

○委員長（梅田徳男）

委員として質問したいので、暫時委員長と交代します。

○副委員長（甲斐尊）

梅田委員の発言を許可します。

○委員（梅田徳男）

今DXの入口として、戦略的にDXの取り組み等をやらないといけない、対応しなきゃいけない時だろうと思います。いわゆる戦略的にやらなくて良くなる時期というか、当たり前の時期が来るだろうと思いますが、そこまでにどのぐらい時間がかかるのですか。

◎総務課長（佐世善之）

梅田委員の質問にお答えします。ICTの技術進歩は著しい部分がございますので、進化し続けるのではないかというふうに思っていますので、終着点がいつになるのかはちょっと今の時点では見えませんが、私どもとしても、先ほど申し上げました持続可能な白杵市を目指すためにはやはり取り組んでいかないといけないので、その終着は明確になっていませんけれども、短期間で取り組んでいかなければならないと思っています。

○委員（梅田徳男）

大変でしょうけども、先取りをして取り組みを行っていただければというふうに思います。

○副委員長（甲斐尊）

それでは委員長の職務を交代します。

○委員長（梅田徳男）

ほかに質疑はありませんか。

（ な し ）

○委員長（梅田徳男）

ないようですので、以上で質疑を終わります。これより討論に入ります。

（ な し ）

○委員長（梅田徳男）

以上で討論を終わります。これより採決を行います。第6号議案については、原案のとおり可決することにご異議ありませんでしょうか。

（ 「異議なし」の声 ）

○委員長（梅田徳男）

異議なしと認めます。よって第6号議案については原案のとおり可決すべきものとして決しました。以上で総務課所管の議案審査を終わります。お疲れ様でした。

○委員長（梅田徳男）

以上で総務委員会を閉会いたします。

午後1時33分 閉会

---

白杵市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに記録を作成する。

令和8年3月4日

白杵市議会

総務委員会委員長 梅 田 徳 男